

Nagios統合監視[実践]リファレンス 付録

Nagios標準マクロ一覧表

1
2
3
4
5
A
B
C

Nagios
標準
マクロ
一覧表

マクロの種類と利用できるコマンドの表を次ページから掲載します^{注1}。この表のマクロ名はすべてスタンダードマクロの形式で記載されています。

表の横軸はそのマクロが利用できる Nagios のバージョンと、使用できるコマンドの種類を表します。たとえば本付録 2 ページ目冒頭のホストマクロ \$HOSTNAME\$ は Nagios 2 および 3 で利用でき、すべてのコマンドで利用できます。本付録 12 ページの通知先マクロの \$CONTACTNAME\$ マクロは、サービス通知用コマンド、ホスト通知用コマンドの定義に利用できますが、そのほかのコマンドでは利用できません。

それぞれのコマンドが本書のどの部分で指定するコマンドで利用できるかを表 1 に示します。

注1 この表は Nagios 公式ドキュメントの「Standard Macros in Nagios」(http://nagios.sourceforge.net/docs/3_0/macrolist.html) を参考に、出力例とバージョン対応を調査して作成しています。

表1 コマンド対応表

コマンドの種類	設定ファイル	利用可能なコマンド設定個所
サービスチェック	オブジェクト設定ファイル	サービス定義の check_command で指定するコマンドのコマンド定義
サービス通知	オブジェクト設定ファイル	通知先定義の service_notification_commands で指定するコマンドのコマンド定義
ホストチェック	オブジェクト設定ファイル	ホスト定義の check_command で指定するコマンドのコマンド定義
ホスト通知	オブジェクト設定ファイル	通知先定義の host_notification_commands で指定するコマンドのコマンド定義
サービスイベントハンドラ	メイン設定ファイル オブジェクト設定ファイル	global_service_event_handler で指定するコマンドのコマンド定義 サービス定義の event_handler で指定するコマンドのコマンド定義
OCSP (OCSP コマンド)	メイン設定ファイル	ocsp_command で指定するコマンドのコマンド定義
ホストイベントハンドラ	メイン設定ファイル オブジェクト設定ファイル	global_host_event_handler で指定するコマンドのコマンド定義 ホスト定義の event_handler で指定するコマンドのコマンド定義
OCHP (OCHP コマンド)	メイン設定ファイル	ochp_command で指定するコマンドのコマンド定義
サービスパフォーマンスデータ	メイン設定ファイル	service_perfdata_command で指定するコマンドのコマンド定義
ホストパフォーマンスデータ	メイン設定ファイル	host_perfdata_command で指定するコマンドのコマンド定義

1
2
3
4
5
A
B
C

ホストマクロ

ホストマクロ

マクロ名	対応バージョン	サービスチェック	サービス通知	ホストチェック	ホスト通知	ハンドビラOCSP	ハンドライベント	マシンスペーカー	ンホストデーパタフオーマ	解説	例
\$HOSTNAME\$	2 3	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストオブジェクト定義の「host_name」の値が入る	web1
\$HOSTDISPLAYNAME\$	3	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストオブジェクト定義の「display_name」の値が入る	Web Server 1
\$HOSTALIAS\$	2 3	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストオブジェクト定義の「alias」の値が入る	Web Server 1
\$HOSTADDRESS\$	2 3	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストオブジェクト定義の「address」の値が入る	192.0.2.10
\$HOSTSTATE\$	3	○	○	○ 注a	○	○	○	○	○	ホストの現在の状態 UP、DOWN、UNREACHABLE が入る	UP
\$HOSTSTATEID\$	3	○	○	○ 注a	○	○	○	○	○	ホストの現在の状態コード 0(UP)、1(DOWN)、2(UNREACHABLE) が入る	0
\$LASTHOSTSTATE\$	3	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストのひとつ前の状態 UP、DOWN、UNREACHABLE が入る	DOWN
\$LASTHOSTSTATEID\$	3	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストのひとつ前の状態コード 0(UP)、1(DOWN)、2(UNREACHABLE) が入る	1
\$HOSTSTATETYPE\$	2 3	○	○	○ 注a	○	○	○	○	○	ホストの現在の状態タイプ HARD、SOFT が入る	HARD
\$HOSTATTEMPT\$	2 3	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストの現在の再試行回数が入る	2
\$MAXHOSTATTEMPTS\$	3	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストのオブジェクト定義の「max_attempts」が入る	3
\$HOSTEVENTID\$	3	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストの状態が変化することに1増えるイベントID番号が入る ^{注b}	107
\$LASTHOSTEVENTID\$	3	○	○	○	○	○	○	○	○	ひとつ前のイベントID番号が入る ^{注b}	106
\$HOSTPROBLEMD\$	3	○	○	○	○	○	○	○	○	正常(UP)以外の異常な状態になるとカウントアップされる問題IDが入る。現在正常である場合は0になるが、カウンタは維持されてリセットされない	58
\$LASTHOSTPROBLEMD\$	3	○	○	○	○	○	○	○	○	正常(UP)以外の異常な状態になるとカウントアップされる問題IDのひとつ前の値が入る	57
\$HOSTLATENCY\$	2 3	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストのアクティブチェックがどの程度遅延しているか遅延の秒数が入る。オンデマンドチェックの設定の場合は0になる	0.388
\$HOSTEXECUTIONTIME\$	2 3	○	○	○ 注a	○	○	○	○	○	ホストチェックの監視に要した時間が秒で入る	0.000
\$HOSTDURATION\$	2 3	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストの現在の状態がどの程度続いているか<N>d <N>h <N>m <N>s(<N>日と<N>時間<N>分<N>秒)の形式で入る	0d 2h 10m 14s
\$HOSTDURATIONSEC\$	2 3	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストの現在の状態がどの程度続いているかが秒の形式で入る	7814
\$HOSTDOWNTIME\$	2 3	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストが現在スケジュールダウンタイム中かどうかが入る。ダウンタイム中の場合は「1」以上の数値が入り、値はダウンタイム設定の重複数(同じ時間に2つのダウンタイムが設定されていると2になる)。	1
\$HOSTPERCENTCHANGE\$	2 3	○	○	○	○	○	○	○	○	フレッシュネスホストチェックで計算されるホストの状態変化率が入る	44.54
\$HOSTGROUPNAME\$	2 3	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストが属しているホストグループが入る。複数のホストグループに属している場合は最初の1つが入る	web-servers
\$HOSTGROUPNAMES\$	3	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストの属しているホストグループが入る。複数のホストグループに属している場合は、区切りですべて表示される	web-servers,linux-servers
\$LASTHOSTCHECK\$	2 3	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストを最後にチェックした日時がタイムスタンプ形式で入る	1290063419
\$LASTHOSTSTATECHANGE\$	2 3	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストが最後に状態変化した日時がタイムスタンプ形式で入る	1290063813

1
2
3
4
5
A
B
C

ホストマクロ

1
2
3
4
5
A
B
C

ホストマクロ

マクロ名	対応バージョン	サービスチェック	サービス通知	ホストチェック	ホスト通知	サービスラベル	サービススイーベント	ホストドライバ	サービスデータ	ホストバッタフオーマ	解説	例
\$LASTHOSTUP\$	2 3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストが最後にUP状態であった日時がタイムスタンプ形式で入る	1290063813
\$LASTHOSTDOWN\$	2 3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストが最後にDOWN状態であった日時がタイムスタンプ形式で入る	1290063743
\$LASTHOSTUNREACHABLE\$	2 3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストが最後にUNREACHABLE状態であった日時がタイムスタンプ形式で入る	1290063693
\$HOSTOUTPUT\$	2 3	○	○	○ 注a	○	○	○	○	○	○	最後にホストチェックしたときのチェックコマンドの出力が入る	PING OK - Packet loss = 0%, RTA = 4.25 ms
\$LONGHOSTOUTPUT\$	3	○	○	○ 注a	○	○	○	○	○	○	最後にホストチェックしたとき、チェックコマンドに改行が含まれている場合の1行目を除いた残りの出力が入る	PING OK - Packet loss = 0%, RTA = 0.09 ms ^{注c}
\$HOSTPERFDATA\$	2 3	○	○	○ 注a	○	○	○	○	○	○	最後にホストチェックしたときのパフォーマンスマネージャーの値が入る	rtt=4.254000ms;3000.000000;5000.000000;0.000000 pl=0%;80;100;0
\$HOSTCHECKCOMMAND\$	2 3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	最後のホストチェックコマンドのコマンド名が入る	check-host-alive
\$HOSTACKAUTHOR\$ ^{注d}	2 3	×	×	×	○	×	×	×	×	×	ホストの障害を認知済みにした際に、Webインターフェースで入力した「Author」名が入る。このマクロは通知タイプが「ACKNOWLEDGEMENT」の場合にのみ働く	Nagios Admin
\$HOSTACKAUTHORNAME\$ ^{注d}	3	×	×	×	○	×	×	×	×	×	ホストの障害をACKNOWLEDGEMENTにした際に、ACKNOWLEDGEMENTにしたユーザの「contact_name」の値が入る(可能な場合)。このマクロは通知タイプが「ACKNOWLEDGEMENT」の場合にのみ働く	admin
\$HOSTACKAUTHORALIAS\$ ^{注d}	3	×	×	×	○	×	×	×	×	×	ホストの障害をACKNOWLEDGEMENTにした際に、ACKNOWLEDGEMENTにした通知先の「alias」の値が入る(可能な場合)。このマクロは通知タイプが「ACKNOWLEDGEMENT」の場合にのみ働く	Nagios Admin
\$HOSTACKCOMMENT\$ ^{注d}	2 3	×	×	×	○	×	×	×	×	×	ホストの障害をACKNOWLEDGEMENTにした際のWebインターフェースのCommentの入力値が入る。このマクロは通知タイプが「ACKNOWLEDGEMENT」の場合にのみ働く	This is maintenance
\$HOSTACTIONURL\$	2 3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストオブジェクト定義の「action_url」の値が入る	http://192.0.2.20/wiki/?192.0.2.10
\$HOSTNOTESURL\$	2 3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストオブジェクト定義の「notes_url」の値が入る	http://192.0.2.20/web1/
\$HOSTNOTES\$	2 3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストオブジェクト定義の「notes」の値が入る。Nagios 3ではオブジェクト定義のnotesディレクティブにマクロ「\$HOSTNAME\$」を含められるようになった	PHP Apache MySQL GD
\$TOTALHOSTSERVICES\$	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストに定義されているサービスの総数が入る	2
\$TOTALHOSTSERVICESOK\$	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストに定義されているサービスのうちOK状態であるものの総数が入る	1
\$TOTALHOSTSERVICESWARNING\$	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストに定義されているサービスのうちWARNING状態であるものの総数が入る	1
\$TOTALHOSTSERVICESUNKNOWN\$	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストに定義されているサービスのうちUNKNOWN状態であるものの総数が入る	0
\$TOTALHOSTSERVICESCRITICAL\$	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストに定義されているサービスのうちCRITICAL状態であるものの総数が入る	0

注a ホストチェックが行われるまでこのマクロは有効になりません。

注b メイン設定ファイルの retain_state_information が有効である場合は Nagios 再起動後も維持されます
が、無効の場合は Nagios 再起動時にクリアされます。

注c 2章の「ping コマンドでホストの死活監視をする」の command_line に -vv を付与した場合の例です。

注d このマクロは廃止予定です。代わりに \$NOTIFICATIONAUTHORS\$、\$NOTIFICATIONAUTHORNAME\$、
\$NOTIFICATIONAUTHORALIAS\$、\$NOTIFICATIONAUTHORCOMMENT\$ を使用してください。1
2
3
4
5
A
B
C

ホストマクロ

1
2
3
4
5
A
B
C1
2
3
4
5
A
B
C

ホストグループマクロ／サービスマクロ

ホストグループマクロ

マクロ名	対応バージョン	サービスチェック	サービス通知	ホストチェック	ホスト通知	ハンドビラOCSP	ハンドライベント	マサニスバタ	マホンストバフオ	解説	例
\$HOSTGROUPALIAS\$ ^a	② ③	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストが属している最初のホストグループ定義の「alias」の値が入る	Web Servers
\$HOSTGROUPEMBERS\$ ^a	③	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストが属している最初のホストグループ定義に設定されているホストの「host_name」の値が入る	web1, web2
\$HOSTGROUPNOTES\$ ^a	③	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストが属している最初のホストグループ定義あるいはオンデマンドマクロで指定したホストグループの「notes」の値が入る	Web Servers Group
\$HOSTGROUPNOTESURL\$ ^a	③	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストが属している最初のホストグループ定義あるいはオンデマンドマクロで指定したホストグループの「notes_url」の値が入る	http://192.0.2.20/wiki/?webserver
\$HOSTGROUPACTIONURL\$ ^a	③	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストが属している最初のホストグループ定義あるいはオンデマンドマクロで指定したホストグループの「action_url」の値が入る	http://192.0.2.20/webservers/

注a ホストグループマクロはそのホストが属する最初のホストグループについての値が入ります。しかし、
オンデマンドマクロとして利用する場合(たとえば、\$HOSTGROUPEMBERS:grp1\$など)では、区切
りすべてのメンバーのリストが入ります(web1, web2など)。

サービスマクロ

マクロ名	対応バージョン	サービスチェック	サービス通知	ホストチェック	ホスト通知	ハンドビラOCSP	ハンドライベント	マサニスバタ	マホンストバフオーマ	解説	例
\$SERVICEDESC\$	② ③	○	○	×	×	○	×	○	×	サービスオブジェクト定義の「service_description」の値が入る	HTTP
\$SERVICEDISPLAYNAME\$	③	○	○	×	×	○	×	○	×	サービスオブジェクト定義の「display_name」の値が入る	HTTP
\$SERVICESTATE\$	② ③ 注a	○	○	×	×	○	×	○	×	サービスの現在の状態OK、WARNING、CRITICAL、UNKNOWNが入る	OK
\$SERVICESTATEID\$	② ③ 注a	○	○	×	×	○	×	○	×	サービスの現在の状態0(OK)、1(WARNING)、2(CRITICAL)、3(UNKNOWN)が入る	0
\$LASTSERVICESTATE\$	③	○	○	×	×	○	×	○	×	サービスのひとつ前の状態OK、WARNING、CRITICAL、UNKNOWNが入る	WARNING
\$LASTSERVICESTATEID\$	③	○	○	×	×	○	×	○	×	サービスのひとつ前の状態0(OK)、1(WARNING)、2(CRITICAL)、3(UNKNOWN)が入る	1
\$SERVICESTATETYPE\$	② ③	○	○	×	×	○	×	○	×	サービスの現在の状態のタイプHARD、SOFTが入る	HARD
\$SERVICEATTEMPT\$	② ③	○	○	×	×	○	×	○	×	サービスの現在の試行回数が入る	3
\$MAXSERVICEATTEMPTS\$	③	○	○	×	×	○	×	○	×	サービスのオブジェクト定義の「max_attempts」が入る	3
\$SERVICEISVOLATILE\$	③	○	○	×	×	○	×	○	×	volatileサービスかどうかが入る。0(通常のサービス)、1(Volatileサービス)	0
\$SERVICEEVENTID\$	③	○	○	×	×	○	×	○	×	サービスの状態が変化ごとに1増えるイベントID番号が入る。サービスの状態 が一度も変化していない場合は0になる。メイン設定ファイルのretain_state_ informationが有効である場合はNagios再起動後も維持されるが、無効の場合は Nagios再起動時にクリアされる	139

ホストグループマクロ／サービスマクロ

1
2
3
4
5
A
B
C

マクロ名	対応バージョン	サービスチェック	サービス通知	ホストチェック	ホスト通知	ハンドラOCSP	サービスイベント	ハンドライベント	マニステータフロー	ンステータフロー	ホストバタフオーマ	解説	例
\$LASTSERVICEEVENTID\$	③	○	○	×	×	○	×	○	×	×	ひとつ前のイベントID番号が入る。サービスの状態が一度も変化していない場合は0になる	138	
\$SERVICEPROBLEMD\$	③	○	○	×	×	○	×	○	×	×	正常(OK)以外の異常な状態になるとカウントアップされる問題IDが入る。現在正常である場合は0になる。リセットされない	0	
\$LASTSERVICEPROBLEMD\$	③	○	○	×	×	○	×	○	×	×	ひとつ前の正常(OK)以外の異常な状態になるとカウントアップされる問題IDが入る	48	
\$SERVICELATENCY\$	②③	○	○	×	×	○	×	○	×	×	サービスのアクティブチェックがどの程度遅延しているか遅延の秒数が入る	0.628	
\$SERVICEEXECUTIONTIME\$	②③	○ 注a	○	×	×	○	×	○	○	×	サービスチェックの監視に要した時間が秒で入る	0.000	
\$SERVICEDURATION\$	②③	○	○	×	×	○	×	○	○	×	サービスの現在の状態がどの程度続いているか<N>d <N>h <N>m <N>s(<N>日と<N>時間<N>分<N>秒)の形式で入る	0d0h0m10s	
\$SERVICEDURATIONSEC\$	②③	○	○	×	×	○	×	○	○	×	サービスの現在の状態がどの程度続いているかが秒の形式で入る	10	
\$SERVICEDOWNTIME\$	②③	○	○	×	×	○	×	○	○	×	サービスが現在スケジュールダウンタイム中かどうかが入る。ダウンタイム中の場合は1以上の数値が入り、値はダウンタイム設定の重複数(同じ時間に2つのダウンタイムが設定されていると2)	0	
\$SERVICEPERCENTCHANGE\$	②③	○	○	×	×	○	×	○	○	×	フレッシュネスサービスチェックで計算されるサービスの状態変化率が入る	18.36	
\$SERVICEGROUPNAME\$	②③	○	○	×	×	○	×	○	○	×	サービスの属しているサービスグループが入る。複数のサービスグループに属している場合は最初の1つが入る	webservices	
\$SERVICEGROUPNAMES\$	③	○	○	×	×	○	×	○	○	×	サービスの属しているサービスグループが入る。複数のホストグループに属している場合は、区切りですべて表示される	webservices,hostingservices	
\$LASTSERVICECHECK\$	②③	○	○	×	×	○	×	○	○	×	サービスを最後にチェックした日時がタイムスタンプ形式で入る	1290072636	
\$LASTSERVICESTATECHANGE\$	②③	○	○	×	×	○	×	○	○	×	サービスが最後に状態変化した日時がタイムスタンプ形式で入る	1290072636	
\$LASTSERVICEOK\$	②③	○	○	×	×	○	×	○	○	×	サービスが最後にOK状態であった日時がタイムスタンプ形式で入る	1290072636	
\$LASTSERVICEWARNING\$	②③	○	○	×	×	○	×	○	○	×	サービスが最後にWARNING状態であった日時がタイムスタンプ形式で入る	1290072584	
\$LASTSERVICEUNKNOWN\$	②③	○	○	×	×	○	×	○	○	×	サービスが最後にUNKNOWN状態であった日時がタイムスタンプ形式で入る	1290072584	
\$LASTSERVICECRITICAL\$	②③	○	○	×	×	○	×	○	○	×	サービスが最後にCRITICAL状態であった日時がタイムスタンプ形式で入る	1290072533	
\$SERVICEOUTPUT\$	②③	○ 注a	○	×	×	○	×	○	○	×	最後にサービスチェックしたときのチェックコマンドの出力が入る	HTTP WARNING: HTTP/1.0 401 Unauthorized - 2484 bytes in 0.025 second response time	
\$LONGSERVICEOUTPUT\$	③	○ 注a	○	×	×	○	×	○	○	×	最後にサービスチェックしたときのチェックコマンドに改行が含まれている場合の1行目を除いた残りの出力が入る	User-Agent:check_http/v1.4.15 (nagios-plugins 1.4.15) Connection: close~以下省略~注b	
\$SERVICEPERFDATA\$	②③	○ 注a	○	×	×	○	×	○	○	×	最後にサービスチェックしたときのパフォーマンスデータの値が入る	time=0.025275s;;0.000000 size=2484B;;;0	
\$SERVICECHECKCOMMAND\$	②③	○	○	×	×	○	×	○	○	×	最後に実行したサービスチェックコマンドのコマンド名が入る	check_http	
\$SERVICEACKAUTHOR\$ ^{注c}	②③	×	○	×	×	×	×	×	○	×	サービスの障害を認知済みにした際にWebインターフェースで入力した「Author」名が入る。このマクロは通知タイプが「ACKNOWLEDGEMENT」の場合にのみ働く	Nagios Admin	
\$SERVICEACKAUTHORNAME\$ ^{注c}	③	×	○	×	×	×	×	×	○	×	サービスの障害を認知済みにした際にACKNOWLEDGEMENTにしたユーザの「contact_name」の値が入る(可能な場合)。このマクロは通知タイプが「ACKNOWLEDGEMENT」の場合にのみ働く	admin	

サービスマクロ

1
2
3
4
5
A
B
C

サービスマクロ

1
2
3
4
5
A
B
C

マクロ名	対応バージョン	サービスチェック	サービス通知	ホストチェック	ホスト通知	ハンドラOCSP	サービスイベント	ハンドラOCSP	ホストイベント	サービスデータベース	ホストパッターフォーム	解説	例
\$SERVICEACKAUTHORALIAS\$ ^{注c}	③	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	サービスの障害を認知済みにした際にACKNOWLEDGEMENTにした通知先の「alias」の値が入る(可能な場合)。このマクロは通知タイプが「ACKNOWLEDGEMENT」の場合にのみ働く	Nagios Admin
\$SERVICEACKCOMMENT\$ ^{注c}	②③	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	サービスの障害を認知済みにした際にWebインターフェースのCommentの入力値が入る。このマクロは通知タイプが「ACKNOWLEDGEMENT」の場合にのみ働く	This is maintenance
\$SERVICEACTIONURL\$	②③	○	○	×	×	○	×	○	○	×	○	サービスオブジェクト定義の「action_url」の値が入る	http://192.0.2.20/?192.0.2.1@HTTP
\$SERVICENOTESURL\$	②③	○	○	×	×	○	×	○	○	×	○	サービスオブジェクト定義の「notes_url」の値が入る。Nagios 3ではオブジェクト定義のnotesディレクティブにマクロ「\$HOSTNAME\$」を含められるようになった	http://192.0.2.20/HTTP/
\$SERVICENOTES\$	②③	○	○	×	×	○	×	○	○	×	○	サービスオブジェクト定義の「notes」の値が入る。Nagios 3ではオブジェクト定義のnotesディレクティブにマクロ「\$HOSTNAME\$」を含められるようになった	20 Namebased virtualhosts server

注a これらのマクロはサービスがチェックされるまでは有効になりません。

注b 2章の「Web サーバを監視する」のコマンド定義の引数に-vを付与した場合の例です。

注c このマクロは廃止予定です。代わりに\$NOTIFICATIONAUTHOR\$, \$NOTIFICATIONAUTHORNAME\$, \$NOTIFICATIONAUTHORALIAS\$, \$NOTIFICATIONAUTHORCOMMENT\$を使用してください。

サービスグループマクロ

マクロ名	対応バージョン	サービスチェック	サービス通知	ホストチェック	ホスト通知	ハンドラOCSP	サービスイベント	ハンドラOCSP	ホストイベント	サービスデータベース	ホストパッターフォーム	解説	例
\$SERVICEGROUPALIAS\$ ^{注a}	②③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	サービスが属している最初のサービスグループ定義の「alias」の値が入る	Web Services
\$SERVICEGROUPMEMBERS\$ ^{注a}	③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	サービスが属している最初のサービスグループ定義あるいはオンデマンドマクロとして指定したサービスの「host_name」と「service_description」の値が入る	web1,HTTP,web2,HTTP
\$SERVICEGROUPNOTES\$ ^{注a}	③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	サービスが属している最初のサービスグループ定義あるいはオンデマンドマクロとして指定したサービスグループの「notes」の値が入る	Web Servers Group
\$SERVICEGROUPNOTESURL\$ ^{注a}	③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	サービスが属している最初のサービスグループ定義の「notes_url」の値が入る	http://192.0.2.20/wiki/?web servers
\$SERVICEGROUPACTIONURL\$ ^{注a}	③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	サービスが属している最初のサービスグループ定義あるいはオンデマンドマクロとして指定したサービスグループの「action_url」の値が入る	http://192.0.2.20/webservers/

注a サービスグループマクロはそのサービスが属する最初のサービスグループについての値が入ります。しかしオンデマンドマクロとして利用する場合(たとえば、\$SERVICEGROUPMEMBERS:grp1\$など)は、区切りですべてのメンバーのリストが入ります。(web1,HTTP,web2,HTTPなど)

サービスグループマクロ

1
2
3
4
5
A
B
C

サービスグループマクロ

1
2
3
4
5
A
B

通知先マクロ

マクロ名	対応バージョン	サービスチェック	サービス通知	ホストチェック	ホスト通知	ハンドブック	ハンドブックOCSP	ハンドブックイベント	マサニスバタフオーマ	ホストパフォーマ	解説	例
\$CONTACTNAME\$	2 3	×	○	×	○	×	×	×	×	×	通知先オブジェクト定義の「contact_name」の値が入る	Sato
\$CONTACTALIAS\$	2 3	×	○	×	○	×	×	×	×	×	通知先オブジェクト定義の「alias」の値が入る	Shogo Sato
\$CONTACTEMAIL\$	2 3	×	○	×	○	×	×	×	×	×	通知先オブジェクト定義の「email」の値が入る	sato@example.jp
\$CONTACTPAGER\$	2 3	×	○	×	○	×	×	×	×	×	通知先オブジェクト定義の「pager」の値が入る	sato_ktai@example.jp
\$CONTACTADDRESS[N]\$	2 3	×	○	×	○	×	×	×	×	×	通知先オブジェクト定義の「address<N>」の値が入る(<N>には対応する数字が入る)	sato_other_address
\$CONTACTGROUPNAME\$	3	×	○	×	○	×	×	×	×	×	通知先が属する通知先グループの「contactgroup_name」の値が入る。複数の通知先グループに属している場合は最初の1グループが表示される	managers
\$CONTACTGROUPNAMES\$	3	×	○	×	○	×	×	×	×	×	通知先が属する通知先グループの「contactgroup_name」の値が、区切りで入る	managers,admins,linux-admins

C

通知グループマクロ

マクロ名	対応バージョン	サービスチェック	サービス通知	ホストチェック	ホスト通知	ハンドブック	ハンドブックOCSP	ハンドブックイベント	マサニスバタフオーマ	ホストパフォーマ	解説	例
\$CONTACTGROUPALIAS\$ ^a	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	通知先が属している最初の通知先グループ定義の「alias」の値が入る	Server Managers
\$CONTACTGROUPMEMBERS\$ ^a	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	通知先が属している最初の通知先グループ定義に設定されている通知先の「contact_name」が入る	sato,nagiosadmin

注a 通知先グループマクロはその通知先が属する最初の通知先グループについての値が入ります。しかしなンデマンドマクロとして利用する場合(たとえば、\$CONTACTGROUPMEMBERS:grp1\$など)は、区切りですべてのメンバーのリストが入ります(sato,nagiosadmin,managerなど)。

通知先マクロ／通知グループマクロ

1
2
3
4
5
A
B

C

通知先マクロ／通知グループマクロ

1
2
3
4
5
A
B
C

サマリーマクロ

マクロ名	対応バージョン	サービスチェック	サービス通知	ホストチェック	ホスト通知	ハンドビラOCSP	ハンドライベント	マサニビデオタ	ホストバッファーマ	解説	例
\$TOTALHOSTSUP\$ ^{注a}	2 3	○	○ 注b	○	○ 注b	○	○	○	○	全監視項目でのUP状態の総数が入る	5
\$TOTALHOSTSDOWN\$ ^{注a}	2 3	○	○ 注b	○	○ 注b	○	○	○	○	全監視項目でのDOWN状態の総数が入る	1
\$TOTALHOSTSUNREACHABLE\$ ^{注a}	2 3	○	○ 注b	○	○ 注b	○	○	○	○	全監視項目でのUNREACHABLE状態の総数が入る	2
\$TOTALHOSTSDOWNUNHANDLED\$ ^{注a}	2 3	○	○ 注b	○	○ 注b	○	○	○	○	全監視項目での未認識 ^{注c} のDOWN状態の総数が入る	1
\$TOTALHOSTSUNREACHABLEUNHANDLED\$ ^{注a}	2 3	○	○ 注b	○	○ 注b	○	○	○	○	全監視項目での未認識 ^{注c} のUNREACHABLE状態の総数が入る	1
\$TOTALHOSTPROBLEMS\$ ^{注a}	2 3	○	○ 注b	○	○ 注b	○	○	○	○	全監視項目でのホストがUP以外の異常を示している状態の総数が入る	2
\$TOTALHOSTPROBLEMSUNHANDLED\$ ^{注a}	2 3	○	○ 注b	○	○ 注b	○	○	○	○	全監視項目で、ホストがUP以外の異常状態で未認識 ^{注c} である項目の総数が入る	3
\$TOTALSERVICESOK\$ ^{注a}	2 3	○	○ 注b	○	○ 注b	○	○	○	○	全監視項目でのOK状態の総数が入る	7
\$TOTALSERVICESWARNING\$ ^{注a}	2 3	○	○ 注b	○	○ 注b	○	○	○	○	全監視項目でのWARNING状態の総数が入る	3
\$TOTALSERVICESCRITICAL\$ ^{注a}	2 3	○	○ 注b	○	○ 注b	○	○	○	○	全監視項目でのCRITICAL状態の総数が入る	1
\$TOTALSERVICESUNKNOWN\$ ^{注a}	2 3	○	○ 注b	○	○ 注b	○	○	○	○	全監視項目でのUNKNOWN状態の総数が入る	1
\$TOTALSERVICESWARNINGUNHANDLED\$ ^{注a}	2 3	○	○ 注b	○	○ 注b	○	○	○	○	全監視項目での未認識 ^{注c} のWARNING状態の総数が入る	2
\$TOTALSERVICESCRITICALUNHANDLED\$ ^{注a}	2 3	○	○ 注b	○	○ 注b	○	○	○	○	全監視項目での未認識 ^{注c} のCRITICAL状態の総数が入る	3
\$TOTALSERVICESUNKNOWNUNHANDLED\$ ^{注a}	2 3	○	○ 注b	○	○ 注b	○	○	○	○	全監視項目での未認識 ^{注c} のUNKNOWN状態の総数が入る	2
\$TOTALSERVICEPROBLEMS\$ ^{注a}	2 3	○	○ 注b	○	○ 注b	○	○	○	○	サービスのOK以外の異常状態の総数が入る	4
\$TOTALSERVICEPROBLEMSUNHANDLED\$ ^{注a}	2 3	○	○ 注b	○	○ 注b	○	○	○	○	サービスのOK以外の異常状態で未認識 ^{注c} の項目の総数が入る	2

注a サマリーマクロは計算にCPUを消費するため、メイン設定ファイルで「use_large_installation_tweaks」を有効にしている場合は環境変数マクロと同じように値が入りません。

注b 総数系のサマリーマクロを通知コマンドで使用する場合は、通知されるホストやサービスだけがカウントされます。

注c Acknowledge状態でも、ダウンタイム中でもなくチェックが有効に設定されている監視項目を指します。

1
2
3
4
5
A
B
C

サマリーマクロ

サマリーマクロ

通知マクロ

1
2
3
4
5
A
B
C

通知マクロ

マクロ名	対応バージョン	サービスチェック	サービス通知	ホストチェック	ホスト通知	ハンドビラOCSP	ハンドバイオーブン	マサニビデオタバフオーマ	ホストパフォーマ	解説	例
\$NOTIFICATIONTYPE\$	② ③	×	○	×	○	×	×	×	×	送信した通知のタイプが入る。通知のタイプには PROBLEM、RECOVERY、ACKNOWLEDGEMENT、FLAPPINGSTART、FLAPPINGSTOP、FLAPPINGDISABLED、DOWNTIMESTART、DOWNTIMEEND、DOWNTIMECANCELLED がある	PROBLEM
\$NOTIFICATIONRECIPIENTS\$	③	×	○	×	○	×	×	×	×	通知を送信した宛先が、区切りで入る	test,nagiosadmin
\$NOTIFICATIONISESCALATED\$	③	×	○	×	○	×	×	×	×	エスカレーションされた通知かどうかのフラグが入る。0(通常の通知)、1(エスカレーションされた通知)	0
\$NOTIFICATIONAUTHOR\$	③	×	○	×	○	×	×	×	×	通知のタイプが「DOWNTIMESTART」「DOWNTIMEEND」の場合は Web インタフェースからダウンタイムを設定した際の Author 欄の入力値が、通知のタイプが「ACKNOWLEDGEMENT」の場合は Web インタフェースから認知済みを行う際の Author 欄の値が、通知のタイプが「CUSTOM」の場合は Web インタフェースから Custom Notification を送信した際の Author 欄の値が入る	Nagios Admin
\$NOTIFICATIONAUTHORNAME\$	③	×	○	×	○	×	×	×	×	\$NOTIFICATIONAUTHOR\$ マクロの値がオブジェクト定義の通知先定義に含まれる場合はその通知先の「contact_name」の値が入る	nagiosadmin
\$NOTIFICATIONAUTHORALIAS\$	③	×	○	×	○	×	×	×	×	\$NOTIFICATIONAUTHOR\$ マクロの値がオブジェクト定義の通知先定義に含まれる場合はその通知先の「alias」の値が入る	Nagios Admin
\$NOTIFICATIONCOMMENT\$	③	×	○	×	○	×	×	×	×	Web インタフェースから DOWNTIME、ACKNOWLEDGEMENT、Custom Notification を発行した際の Comment 欄の値が入る	This is maintenance.
\$NOTIFICATIONNUMBER\$	②	×	○	×	○	×	×	×	×	ホスト、サービス障害時の通知回数 ^{注a} が入る。Nagios 3 では「\$HOSTNOTIFICATIONNUMBER\$」「\$SERVICENOTIFICATIONNUMBER\$」マクロに置き換えられた	1
\$HOSTNOTIFICATIONNUMBER\$	③	×	○	×	○	×	×	×	×	ホスト障害時の通知回数 ^{注a} が入る。Nagios 2 の「\$NOTIFICATIONNUMBER\$」マクロから置き換えられた	1
\$HOSTNOTIFICATIONID\$	③	×	○	×	○	×	×	×	×	このホストの通知IDが入る。通知IDは全監視対象をまといで一意の値で、ホストあるいはサービスの通知が行われるごとに1加算される数値です。状態保存を有効にしている場合は Nagios 再起動後も値が維持されます。	2557
\$SERVICENOTIFICATIONNUMBER\$	③	×	○	×	○	×	×	×	×	サービス障害時の通知回数 ^{注a} が入る。Nagios 2 の「\$NOTIFICATIONNUMBER\$」マクロから置き換えられた	1
\$SERVICENOTIFICATIONID\$	③	×	○	×	○	×	×	×	×	このサービスの通知IDが入る	2586

注a 通知回数は notification_interval の値で指定した値で、繰り返し送られその際にこの値が1増えます。また、Web インタフェースで Custom Notification を送信した場合も加算されますが、認知済みは回数に入りません。

1
2
3
4
5
A
B
C

通知マクロ

日付・時刻マクロ

1
2
3
4
5
A
B
C

マクロ名	対応バージョン	サービスチェック	サービス通知	ホストチェック	ホスト通知	ハンドビスイイベント	ハンドライベント	マサニビスパータ	ホストバッファーマ	解説	例
\$LONGDATETIME\$	② ③	○	○	○	○	○	○	○	○	現在日時がロングフォーマットで入る。書式はメイン設定ファイルの「date_format」で指定する	Fri Nov 19 10:45:16 JST 2010
\$SHORTDATETIME\$	② ③	○	○	○	○	○	○	○	○	現在日時がショートフォーマットで入る。書式はメイン設定ファイルの「date_format」で指定する	11-19-2010 10:45:16
\$DATE\$	② ③	○	○	○	○	○	○	○	○	現在の日付が入る。書式はメイン設定ファイルの「date_format」で指定する	11-19-2010
\$TIME\$	② ③	○	○	○	○	○	○	○	○	現在の時刻が入る	10:45:16
\$TIMET\$	② ③	○	○	○	○	○	○	○	○	現在の時刻がタイムスタンプ形式(time_t)で入る	1290131116
\$ISVALIDTIME:<時間帯定義のtimeperiod_nameの値>\$ ^{注a}	③	○	○	○	○	○	○	○	○	このマクロは特殊なオンデマンドマクロで、時間帯定義の timeperiod_name を添えて使用することで、現在日時が指定した時間帯の範囲内であるかどうかのフラグが入る。①(範囲外)、②(範囲内)	1
\$ISVALIDTIME:<時間帯定義のtimeperiod_nameの値>:<タイムスタンプ>\$ ^{注a}	③	○	○	○	○	○	○	○	○	このマクロは特殊なオンデマンドマクロで、時間帯定義の timeperiod_name とタイムスタンプを添えて使用することで、指定したタイムスタンプが指定した時間帯の範囲内であるかどうかのフラグが入る。①(範囲外)、②(範囲内)	1
\$NEXTVALIDTIME:<時間帯定義のtimeperiod_nameの値>\$ ^{注a}	③	○	○	○	○	○	○	○	○	このマクロは特殊なオンデマンドマクロで、時間帯定義の timeperiod_name を添えて使用することで、指定した時間帯の次の有効な時間がタイムスタンプ形式で入る。有効な時間が無い場合は0が入る	1290131116
\$NEXTVALIDTIME:<時間帯定義のtimeperiod_nameの値>:<タイムスタンプ>\$ ^{注a}	③	○	○	○	○	○	○	○	○	このマクロは特殊なオンデマンドマクロで、時間帯定義の timeperiod_name とタイムスタンプを添えて使用することで、指定したタイムスタンプが指定した値の次の有効な時間がタイムスタンプ形式で入る。有効な時間が無い場合は0が入る	1290131116

注a これらのマクロはオンデマンドマクロのみです。スタンダードマクロとしては利用できません。

ファイルマクロ

日付時刻マクロ／ファイルマクロ

マクロ名	対応バージョン	サービスチェック	サービス通知	ホストチェック	ホスト通知	ハンドビスイイベント	ハンドライベント	マサニビスパータ	ホストバッファーマ	解説	例
\$MAINCONFIGFILE\$	② ③	○	○	○	○	○	○	○	○	メインコンフィグファイルの場所がフルパスで入る	/usr/local/nagios/etc/nagios.cfg
\$STATUSDATAFILE\$	② ③	○	○	○	○	○	○	○	○	ステータスファイルの場所がフルパスで入る	/usr/local/nagios/var/status.dat
\$COMMENTDATAFILE\$	②	○	○	○	○	○	○	○	○	コメントの保存ファイルの場所がフルパスで入る	/usr/local/nagios/var/comment.s.dat
\$DOWNTIMEDATAFILE\$	②	○	○	○	○	○	○	○	○	スケジュールダウンタイムの保存ファイルの場所がフルパスで入る	/usr/local/nagios/var/downtime.dat
\$RETENTIONDATAFILE\$	②	○	○	○	○	○	○	○	○	ステータス情報の保存先ファイルの場所がフルパスで入る	/usr/local/nagios/var/retention.dat

1
2
3
4
5
A
B
C

日付時刻マクロ／ファイルマクロ

1
2
3
4
5
A
B
C

マクロ名	対応バージョン	サービスチェック	サービス通知	ホストチェック	ホスト通知	ハンドラOCSP	サービスイベント	ハンドライベント	ホストデータ	サービスデータ	ンストーパタ	ホストパフォーマ	解説	例
\$OBJECTCACHEFILE\$	②③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	オブジェクトキャッシュファイルの場所がフルパスで入る	/usr/local/nagios/var/objects.cache
\$TEMPFILE\$	②③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	一時ファイルの場所がフルパスで入る	/usr/local/nagios/var/nagios.tmp
\$TEMPPATH\$	③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	一時ディレクトリの場所がフルパスで入る	/tmp
\$LOGFILE\$	②③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ログファイルの場所がフルパスで入る	/usr/local/nagios/var/nagios.log
\$RESOURCEFILE\$	②③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	リソース設定ファイルの場所がフルパスで入る	/usr/local/nagios/etc/resource.cfg
\$COMMANDFILE\$	②③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	外部コマンドファイルの場所がフルパスで入る	/usr/local/nagios/var/rw/nagios.cmd
\$HOSTPERFDATAFILE\$	②③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ホストパフォーマンスデータ保存ファイルの場所がフルパスで入る	/tmp/host-perfdata
\$SERVICEPERFDATAFILE\$	②③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	サービスパフォーマンスデータ保存ファイルの場所がフルパスで入る	/tmp/service-perfdata

その他マクロ

マクロ名	対応バージョン	サービスチェック	サービス通知	ホストチェック	ホスト通知	ハンドラOCSP	サービスイベント	ハンドライベント	マサニビデータ	ンホストパタ	ホストパフォーマ	解説	例	
\$PROCESSSTARTTIME\$	②③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Nagios プロセスが最後に起動あるいは再起動した日時がタイムスタンプ形式で入る	1290136271
\$EVENTSTARTTIME\$	③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Nagios プロセスの内部イベントが発生した日時がタイムスタンプ形式で入る	1290136271
\$ADMINEMAIL\$	②③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	メイン設定ファイルの Nagios 導入ホストの管理者の E-mail アドレスが入る	nagios@localhost
\$ADMINPAGER\$	②③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	メイン設定ファイルの Nagios 導入ホストの管理者の携帯アドレスが入る	pagenagios@localhost
\$ARG<N>\$	②③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	通知やイベントハンドラ、サービスチェックコマンドの引数として使用できる1~32個までの変数の値が入る。<N>には対応する1~32の数字が入る	check_http
\$USER<N>\$	②③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	リソース設定ファイルで定義する1~32個までの変数の値が入る。<N>には対応する1~32の数字が入る	/usr/local/nagios/libexec

1
2
3
4
5
A
B
C

その他マクロ